

## 平成20年度第4回宮城大学法人化推進会議 会議要旨

- 1 日 時 平成20年9月3日(水) 9:30~12:00
- 2 場 所 宮城県行政庁舎9階 第一会議室
- 3 出席者 池戸委員, 石山委員, 岡部委員, 佐藤委員, 白石委員, 保理委員, 馬渡委員, 山田委員(50音順)
- 4 会議の内容

### 総務部長挨拶要旨

本日は, お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

9月に入り, 今年度も残すところ7ヶ月というところですが, 法人化については, 評価委員会等のスケジュールを見ましても, 実質的には年内に概ねの作業を終わらせなければならないことを考えますと, 残りは4ヶ月だという思いがあります。そうした意味では, さらに検討を早め, 中期目標・中期計画のみならず, 種々の検討を進めていかなければならないと考えております。

前回の会議では, 7月16日に開催されました第1回評価委員会で各委員から出された意見に基づく中期目標案・中期計画案の修正ポイントや方向付けについて御協議をいただきました。本日は, そのポイント・方向付けに基づきまして, 大学と県側で具体的な対応案や修正案を準備いただいておりますので, これについて協議・確認をいただきまして, 今月19日に開催する予定としております第2回評価委員会に提出する具体案を固めていきたいと考えております。

また, 今後の推進会議・評価委員会での検討内容や検討スケジュール等につきましても, 御確認いただきたいと考えておりますので, 皆様から忌憚のない御意見を賜りますようお願いいたします。

### 報告事項

平成20年度第3回宮城大学法人化推進会議 会議要旨について

事務局から報告資料に基づき, 「平成20年度第3回宮城大学法人化推進会議」で協議した項目, 検討経過について報告した。

### 協議事項及び発言要旨

公立大学法人宮城大学中期目標案・中期計画案について  
(議長)

今回は, 「公立大学法人宮城大学中期目標案・中期計画案について」という議題で, 7月に開催されました「公立大学法人宮城大学評価委員会」第1回会議において, 各評価委員から出されました意見等に対して, 具体的にどのように中期目標・中期計画の案等に反映して, 今月19日に開催予定の第2回会議に提示するか, について御協議・御確認をいただきます。

まず, 修正のポイント及び「公立大学法人宮城大学中期目標案」のうち, 教育に関する目標について, 事務局から説明をお願いします。

《事務局から次の資料により説明した。》

資料1 公立大学法人宮城大学中期目標案(教育に関する目標)

(議長)

では、次に、「中期目標・中期計画の大学修正案について」大学側から説明をお願いします。

《大学側から次の資料により説明した。》

資料2 公立大学法人宮城大学中期目標案・中期計画案(大学修正案)

(議長)

次に、ただいまの大学の修正案に対して、県側で検討した内容について説明をお願いします。

《事務局から次の資料により説明した。》

資料3 大学修正案(資料2)に対する検討資料

(議長)

それでは、ただいま御説明いただきました「中期目標案」、「大学修正案」及び「大学修正案に対する検討案」3点につきまして、皆様に御協議いただきたいと思います。

お気付きの点につきまして、御意見等をいただければと思います。

(委員)

資料1と資料2の関連で、資料2は8月27日に県から出された中期目標の修正版をベースにして大学側で直しています。資料1は9月3日現在で、資料2の8月27日の修正版とだいぶ違うようですが、これはどういうことですか。

(事務局)

前回の評価委員会で委員から分かりにくい表現の修正を求められていましたので、前回の第3回推進会議で、修正したものを参考資料として提示させていただきました。中期目標については知事が示すものですので、県の方でさらに修正できるものを修正したものが資料1となり、県としてはこのように修正したいということです。

(委員)

資料1については目標数値が示されていて、計画の立て方にも影響するところですから検討の余地があるものと考えていますが、もう少し早い段階で提示してもらうことはできなかったのでしょうか。重大な修正があるものはもう少し前に提示してもらい、大学側で検討する時間をきっちりと与えていただいた方が良いと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

本来は、この推進会議で議論をしていただくのが基本でございます。会議の前に事務局で案を示し御議論いただいた方が良いでしょうが、今回は事前に大学側に示す時間がございませんでした。

(委員)

中期目標は知事が定めるものですが、立て方自体は大学と協力をして行っていくということですから、数値目標を「はじめに」の方に記載することが大学側として呑めないという場合の取扱いはどう考えていますか。

(事務局)

推進会議は、県と大学側の意見を擦り合わせて調整していく場であることが、当初からのこの会議の趣旨ですから、事務局の意見を押し付ける考えは毛頭ございません。資料1は1つの案ですから、これを叩き台として御議論いただきたいということです。

(委員)

資料3は、8月27日の大学修正案に対する意見でしょうから、この資料自体はあまり意味がないのではないのでしょうか。目標と計画はかなり交錯していますので、目標が変わるとそれを見ながら計画を再度点検しなければなりません。

(委員)

資料の修正時点が違いますので、今日の資料では、全体として大学の修正案に対する最終的な県の見解にもなりようがない状態です。今日は、新たに目標として設置者側から示された案に対しての基本的な考え方はどうかという観点で議論していただき、全体を通してもう一度洗い直し、計画の修正をしていただくということではどうでしょうか。

(事務局)

次回の評価委員会が今月19日ですから、本日意見交換をしていただき、まとめられるものについてはまとめていただき、修正が必要な計画等があれば、一両日中にチェックをしていただければと思います。内容的には文言の修正がほとんどなので、あまり大きくは変わらないと思います。ただし、大学として何を指すのかということをし少し具体的にして、計画に記載のあった数値を目標に移して記載しています。このうち、県内就職率に係る食産業学部の割合を増加させたのは、現在の実績から見て上方修正して数値を仮置きしたものであり、経営の効率化についても議論をしていないのであげられないということであれば、他の数値を記載することでも良いと思います。記載したものが絶対的なものではないので、この場で意見交換をしていただき、最終的には知事の意向を聞きながら、修正を行っていきたくと考えております。

(議長)

私としては、前回の評価委員会における一番大きな指摘は、もう少しシンプルに、目標を数値で何らかし示せないかということだったと思います。これについては、前回の推進会議でも議論がなされまして、総体的には難しいとのことでしたが、ただ難しいというだけで定性的なことだけでは乗り切れない部分もありますので、そうした意味では、今出された案を1つの叩き台として何らかの形を目指すべく、案を提示しているというのが資料1の大きなところだと私は認識しています。数値をどこまで書き込むかということについては、大学側としても色々な御意見があろうかと思いますが、避けて通れない方向性とも思われますので、擦り合わせをし、大局的な面から御意見をいただければと思います。

(委員)

19日の評価委員会に出される資料としては、参考資料2にあります背景や現状分析が入った資料となるのでしょうか、それとも別立ての資料として出すのでしょうか。

(事務局)

今のところは、背景・現状分析については、別立ての資料として出すことを考えています。自己点検評価報告書自体は大変膨大な量なので、それをまとめたものが本日の参考資料2となりますが、ここに記載したものが全てではないと思います。したがって、大学側でまとめられたものと一緒して参考資料として提示したいと考えております。

(委員)

自己点検評価報告書は作成してから時間が経っているものですから、もう少し現状に合わせたものを記述した方が良いのではないかとということで、資料2に記述しているわけですが、参考資料2をもとに手直しした方が良いということでしょうか。

(事務局)

そうなります。参考資料2については、現状で把握し得る資料からまとめたものですのでこの記載以上に変更があれば、これに手直ししていただくことで良いと考えています。

(委員)

一番のポイントは、目標の「はじめに」の書き方について目標値をあげておりますので、この辺の捉え方をまずやっていただくと良いと思います。委員のみなさんから指摘があった大学の役割や何を狙っているという大きなところが共通理解になると思いますので、そこを議論していただいた後、個別に御指摘のあった選抜単位や英語教育などについて確認するやり方が良いのではないかとと思います。

(委員)

資料1の「はじめに」の部分の目標値は、委員からも指摘があった点なので記載せざるを

得ないとは思いますが、なぜ今記載している項目を選んだのかを説明していただきたいことが1つと、記載の分類が教育・研究・業務運営となっていますが、就職率の話で言えば、後段では地域貢献で述べられているものであり、体系が異なっていることについてどのように考えているのかを説明願います。

(事務局)

教育と研究そのものについては、これを書くことによって地域貢献になると思っています。教育面での地域貢献、これは地域に優秀な人材を輩出することであり、数値目標をあげるとなりますと、今のところ県内の就職率しか出てこないということで、県内就職率の向上という形であげたらどうかということです。研究については、地域社会に成果を還元するというにしておりますが、県内だけを見るとほとんど連携がないので、少しエリアを広げて近県との共同研究など東北地域における地域企業と連携を図るということで数値目標をあげております。この部分では、何を目標に、何を大きな視点としているかということで記載しておりますので、記載の場所が後段の記載と連動しないということもあります。業務運営につきましては、大学を運営していく上での大きな指針ともなりますが、数値目標としてはまだ議論しておりませんので、例えばという仮置きで記載しております。

(委員)

中期目標については発言しにくい部分はありますが、地方独立行政法人法から言えば、大学の意見に配慮して知事が定めるとなっていますので、ある程度大学の考え方を考慮していただけることが前提であり、また、本県の場合は大学と連携して法人化を進めていくこととなっておりますので、私としては最初の4つ基本指針に代えて、今記載の修正案3つを並べるといふことには相当な違和感があります。数値目標をあげざるを得ないというのは委員の発言からもあり得ることですが、教育界から見ますと、今挙げているものをいきなり中期目標にするというのは具体的ではありますが、ピンポイントになり過ぎていて、方向性がきちりと打ち出せていないということもあります。例えば、中教審や教育再生会議、中教審大学分科会で議論していること等を踏まえた場合に、今教育界で何が大事かということに対して宮城大学がどのようにしていくのかを訴えるものがないと見られる可能性が高いと思います。どこにアピールするかが問題ですが、高等教育機関としての目標を定めていただくということであれば、県民の方々には勿論必要ですが、同時に教育界全体、大学界全体で見てもきちとした現代に合った方向性を示していると、私はそうした観点が必要ではないかと思っています。そうした意味ではここに数値目標を書くのか、前に記載のあった4つの基本指針をあげておいて、数値目標はそれぞれの対応する項目のところに書いていくのか、その辺を考えていただけないかと思います。総論的な方針の部分では、基本指針程度の抽象的な表現は然るべきであって、評価委員会でお分かりにならないと言われたからといって、対応は基本的に必要ですが、大学が置かれている中で何を重点としてやるのかという点については、最初の方にまとめて出していただいた方が良く私は思います。いきなり数値目標を持つてくるのは、あまりにも具体的すぎるという印象を受けます。しかし、中期目標に数値をあげることに絶対反対ということではありません。

(事務局)

4つの基本指針は、宮城大学として何を目指しているのかというのがちょっと分かりにくい、という意見が評価委員会でもありましたので、先の知事の話にもありましたが、全国を狙っているのか地域や県内を狙っているのか、その辺の部分がもう少し出せたら良いということです。人材を集める時は全国、もちろん県内も当然質の高い優秀な学生を集めますが、輩出する時には全国ではなく地域に出し、地域貢献型を宮城大学は目指しているのだということを、この「はじめに」の部分に明記した方が良く思ったわけです。数値目標としては、出せるとしたら県内就職率くらいで、地域社会に出していくという考え方をこの部分に明記しているということです。

(委員)

例えば、「はじめに」には修正案の数値目標は除いて本文だけを記載して、然るべきところ

の目標の中に数値目標をあげるという、数値目標の記載の仕方としてはそういう方法も1つあると思います。最初から数値目標をあげるのかどうかということで、かなり印象が違ふと思います。

(委員)

今までの議論などで私が感じているのは、評価委員の先生方から御指摘があったように、宮城大学の方向性や特色、他大学との棲み分けが見えないので、もう少しはっきりと具体的にしたいということが一番のポイントだと思います。基本方針として記載している4つの柱だけだと、なかなかその辺が見えないということなので、事務局としてはかなり大胆に、全国から学生を集めて実践的な力を身につけさせて地域に輩出するということを特徴として出すことを念頭におき、教育面でもそうした表現を意識し、なおかつ、数値目標として一番あげられるのも県内就職率くらいで、研究でも地域との連携を強調したものをあげたものだと思います。ただし、實際上大学側でどう捉えているかと言うと、例えば、教育の成果についても「地域社会」についてはあまり強調されていない部分があるなど、地域ばかりを見ているわけではないということで、ずれが生じている印象があります。特色が見えないとされた4つの基本指針については何らかの対応が必要かと思いますが、修正案に記載の3項目をこのままあげて、この目標が大学の6年間を象徴するものかということには相当議論が必要で、特に業務運営のところは、大学運営の経費縮減率が目標として導き出されるかということ、難しい感じはしています。

(委員)

何か不幸な行き違いがあるかと思いますが、大学の元々の発想は教育の地域貢献が一番の中心にあり、その辺をかなり打ち出していたのですが、計画の記載が目標に移ったため、目標と計画の記載の関係でうまくいっていないことがあるかも知れません。しかし、大学の重大な目標が地域人材養成にあることはかなり徹底して議論してきておりまして、3つの新たな地域プログラムに取り組むなど、大学としてはその辺は見失っていないつもりです。私としては、今回の修正案を文章として入れることは、教育・研究面でも地域貢献型の記載となっていますので、入れていて構わないと思います。ここで何より気になるのは、目標の最初に数値目標を入れるのか、後段の然るべきところに入れるのかということです。

(委員)

「はじめに」の前文の記載は変更なしですが、前文の表現の仕方と修正案の1～3の記載レベルがちょっと抽象度も違ふと思いますので、仮に1～3を生かすとすれば、前文ももっときちっと見直した形で、地域貢献をはっきりと方向付けすることをしないと収まらないのではないのでしょうか。前文をこのままとしておくのであれば、私としては原案の1～4にある抽象度の方が良いと思います。

また、目標値については何をあげるかということですが、どうしても入れるということであれば、後段の体系の中で入れていくべきだと思います。

さらに、就職率は仮置きということですが、この数値は我々が主体的につかめるものではなく経済状況などに左右されるものなので、目標値としては非常に危うい部分があり、そうしたものを中期目標に設定することはかなり疑問だと思います。研究の数値部分についても大学ではほとんど議論をしておらず、この辺の議論は残ると思います。業務運営についての縮減率についてもこれからの議論になりますので、現段階では記載までしなくても良いのではないかと思います。

(委員)

次回の評価委員会では、研究がテーマになると思いますが、研究の部分も修正した形で出されるのでしょうか。

(事務局)

推進会議のスケジュールでは、教育の部分の手直しを行い、さらに研究・地域貢献の部分も手直ししたものを提示したいと思っていましたが、そこまでやっている時間もないことですので、委員会で前回提示したものを基にして御指摘をいただき、それに基づいて修正を行

っていくことになると思っています。

(委員)

前回の評価委員会で言われた宮城大学の課題については、資料1の「はじめに」に記載の中期目標だけでは不十分だと思っています。素直にとるとすれば、宮城や東北の置かれた社会・経済上の問題を解決できるような人材を輩出するためにはどうしたら良いかということ、それを記載しなければならない気がしております。そのために、人材をどのように輩出しなければならないかという方法を後段では記載する必要があるでしょうし、それを定着させる方法やそれに即した研究はどういうものを支援・促進したら良いのか、そうした当たりを踏み込んでいくことが評価委員会からの課題だと思います。単に知事や学長が言われるように、県内にとどめるだけでなく、人材や研究の成果を一般性があり、なおかつ、全国的にも発信でき得るものに築き上げていくのだということが中期目標にあげられ、さらにそれを中期計画で具体的に支えていくような記載としないと、評価委員の問いに答えられない気がしますが、それはいかがでしょうか。

(委員)

今のお話は、委員のみなさんから言われたことは、理念や実学などを踏まえた形で教育の質の向上や教育力を高めるということではなくて、社会的な課題から導き出されるもっと中期的な目標が具体的にありべきではないかというお話だと思います。その点からすると、学生を全国から受け入れて、実践力を高めて地域社会に輩出するということが良いのか、そこが突合できないと駄目なのだと思います。「はじめに」の部分には建学の理念が記載されていますので、ちゃんと読んでいただければ、宮城大学が地域に貢献する大学だということが分かりますが、中期目標では6年間で何に力点を置いていくのかということが一目で見えないと分からないということになってしまいますので、その辺を教育・研究を中心に「はじめに」に記載していくことがポイントになると思います。

(委員)

基本指針を生かして記載するのか、または、修正案の1～3とするのか、1～3とする場合には数値目標を入れるのか、その当たりが議論のポイントになっているのだと思います。

(委員)

基本指針の1～4をもう少し中期的に、地元の課題に有効な解決策を示しますといったことが滲み出るような記載になれば、私は1～4を膨らませることで力点が見えるようになりそれで構わないと思います。

(委員)

基本指針だけでは具体性に欠け、イメージが湧かないということであれば、修正案を生かすことでも良いと思います。ただし、基本指針にあって修正案にない記載もありまして、例えば、入学してきた学生を卒業するまでに教育力によってどうやってレベルアップさせるか、それは学士力ですとか、到達度を掲げてしっかり教育しようということが現在の教育界では話題になっています。そうしたことが修正案に見えないことは気になりまして、ただ実践力を上げるのではなく、どうやって4年間で高めるのか、そうした点を考慮して修正していただければ良いかと思います。目標数値について県内就職率をあげるのは、かえって捉え方が狭くなる気がいたします。事業構想学部の場合は、県外に出て行く人が6、7割いるわけですが、その人達が社会貢献をしていない、人材養成の面で大学に貢献していないとは全く思っておりませんし、全国的に活躍して県内に戻ってくることもあると思います。数値目標の記載については、「はじめに」ではなく後段に記載できないかなとは感じております。

(委員)

目標数値は、評価委員が経営的な観点から見たときの御指摘なので、大学の運営の目標という際には、経営指標や損益分布のようなものを会社の運営方針のように一番トップに持ってくることは無理だということを、御理解いただくことが一番良いと思います。大学を象徴する目標数値があれば良いのですが、無理矢理作って、そのために文章が偏ってしまうとなると、かえって宮城大学が6年間にやるべきことから外れてしまうことが懸念されます。

(委員)

教育目標や地域貢献度合いが、ある意味低くなる感じがします。

(委員)

体裁を整えるだけの目標になってしまっただけでは意味がありません。中身で勝負するのが大学の教育ですから、その辺がないがしろになって就職だけの部分が出てしまうのが良いのかというのを考えなければならないと思います。

(議長)

ここは悩ましいところで、分かり易い目標で数値が入った方が明確だと言われましたが、これだけ議論して、これだという案が1つも出てこないということは、やはり、ものの性質が数値で表せるものではないということかなと思います。しかしながら、評価委員会の中で委員から、例えなども使って御自分の御経験からお話いただいたことでもございますので、考えた結果、文章にしかならないという説明をするためには、相当腹をくくっておく必要があります。そういう意味では、安易に数値化しないことを選択することなく、まずは曲がりなりにも議論に乗せてみようという思いから、事務局では案をひねり出したということは間違いないことです。4つの基本指針における到達度や達成度を考えながら、質の確保であることや、研究力を高めるということは分かるわけですが、そういったものを数値には出しにくいということなので、教育と研究という縦の軸に対して、地域貢献度というある意味、横の軸を組み合わせた形で県内就職率を叩き台に乗せようという形になったために、多少、大学が目指す質の確保ということから、ややスローガンの弱く弱い書き方になってしまったという嫌いは確かにあります。それは目標を数値化すべく、ひねり出したために、こうなってしまったということで、研究についても然りです。こうしてみると、ひねり出したものでもなかなか、これだというものが難しいのかなという気がしています。

(委員)

この6年間で、宮城大学が法人化して最大の目標として掲げなければならないのは、儲けをどれだけたくさん出しますということでしょうか。そうではないでしょうから、そうした指標を一番に掲げることはできないという、極めて単純な話だと思います。これは委員のみなさんに御理解をいただくしかないと思います。

(委員)

評価委員会は県で設けていますので、私どもの方でも資料は用意しますが、そういう形で対応するという結論としていただけるならば、その方が大学のこれからの6年間の道しるべとしては有難いと思います。仮に、ここで今記載している数値目標をあげたとしても、後段に出てくる任期制をどうするかということや、教員の選考をどうするかということについてはうまく引っかかってきません。ですから、そういう点でも心配があります。数値目標をあげることによって、後段の記載が総論に縛られてしまいます。

(委員)

色々と議論が出たとおりだと思いますけれども、数値目標の位置づけがはっきり定義されていないことがあると思います。中期計画に数値はありますが、必ずしも文章の全てを数値で表せているわけではありません。中期目標で設定する目標数値と計画段階のものとは位置づけや趣が違ってくるのではないかと思います。目標でも数値化できるものはできるだけ数値化するという考え方は良いのですけれども、大学として教育研究を数値でどういう風に表せるかというのは難しいわけです。逆に、数値を入れれば、それに引っ張られてしまう。数値を入れるのは良いのですが、目標の「はじめに」に書くと、後段を象徴するような形になるので、極めて的確な指標を設定しておかないと影響が大きい感じがします。また、4つの基本指針については、地方独立行政法人法という項目には合っていると思いますが、それを宮城大学に当てはめた時に、より具体性が分からないということだったと思います。また、修正案には地域貢献の項目が書いていませんけれども、むしろ県民の方が見たときには、地域貢献の項目があった方がより良いのかなという感じはします。その点は基本指針には書いていますので、内容をより具体的に書いて、かつ、数値目標は後段に書くということの方が

良いと思います。

(議長)

目標の中の「はじめに」として、資料1では、教育・研究・業務運営の3本柱として数値目標を入れることを前提としながら記載したわけですが、これを記載すると少々すわりが良くないということでしょうか。基本指針の記載が抽象的となるかどうかは考え方が分かれる所でしょうか。数値目標を入れることによって格調とのギャップが出てくるといふ二律背反な思いはあります。今までの議論を踏まえ、と、「はじめに」の部分にはあえて数値目標を出すことは適切ではない、という意見が多いように感じます。

(委員)

大学を象徴する適切な数値が得られないというのが実体です。目標として、これだというものをも1つあげること自体が難しいということです。

(議長)

個別に言いますと、就職率の向上自体は、元々、県内を目指すのかという根本的な議論がありますが、研究における連携については、1つの目標として中期目標のどこかに記載することはできないのか、また、業務運営につきましても、運営経費の縮減率については大学側でも御議論があるでしょうが、外部資金の獲得は目指すべき数値として残すことはできないのか、といった方向にシフトしていくことは考えられないでしょうか。目標の中でも、ふさわしいものがあれば数値を記載する可能性を追求するという思いがありますが、これについてはどうお考えでしょうか。

(委員)

県内就職率をあげることは了承せざるを得ないという面もありますが、その場合は、3学部に分けてやるやり方ではなくて、大学全体を平均して、例えば4割以上にするなどしないと、学部によって差異がありますので目標の達成が非常に厳しいです。目標で数値を示されますと、達成しない場合は違反となりますから、記載するとなれば記載の仕方については検討させていただきたいと思います。食産業学部でも県内就職率は25%になるでしょ、と言われますが、そう簡単ではありません。

(委員)

中期目標のはじめに数値目標を掲げるということは、それが大学としての目標の、いの一歩だということですよ。県内就職率をあげれば、宮城県として県内就職率が最大の課題であり、最大の目標になるということですよ。こうした意味から、本当に記載して良いのかということは、真剣に考える必要があります。

(委員)

数値目標だけ文章の中に入れないで、中期目標の一番後ろに主な数値目標ということで、表として乗せることは難しいのでしょうか。

(事務局)

記載の仕方はいかようにでもなると思います。議論していただきたいのは、中期目標に数値目標をあげるのか、あげないか、その場合あげるとしたらどういうものがあるのか、ということです。議論の中でもありましたが、あげる必要がないというのであれば文章だけにします。

(委員)

数値は、目標に対して具体的にどういう計画で、どういう実践をやっていくかによって、それを数値で表せばこうなるというのが普通だと思います。そこから引っ張ってきて、目標自体に数値をあげるということは、本当にポイントとなる宮城大学が目指すべき象徴とするようなものでなければならないと思います。ですから、それを例えば、ということに記載することはあまり意味がないと思います。記載する場合は、大学の6年間の最大のポイントと言い切れるものを県として真剣に考える必要があります。評価委員会だけ通れば良いという話ではありません。

(事務局)

知事も全国型なのか地域型なのかという部分を、何らかの形で出したいと言われていました。目標はこの6年で終わりではないので、当初の6年間での目標はこれだということが何かあっても良いのかな、ということで県内就職率を提示したわけです。平成27年から始まる第二期の目標も、必ずしも今と同じとはならないでしょうから、この6年間の目標をあげるということです。

(委員)

今後とも1つ変わらない目標があるとすれば、それは、定員割れをしないということです。社会のニーズがある大学でなければならぬということですが、それを出したところで、現在定員割れをしていないので、これは目標としては低すぎます。ただし、将来的には競合関係の中で定員割れすることはあり得ると思っていますので、定員割れをしないことや、定員の2倍以上の応募者を確保することは大学の根本に関わるところで、そういう目標もあると思います。ただし、それは低すぎる目標なので暗黙のものとして当然達成していかなければならないと考えれば、それに代わるようなものがあるかということ難しいと思います。

(事務局)

知事からは定員割れしない大学を目指しなさいとは言えません。どういう大学を目指すかということですから、全国で活躍する人材、世界で活躍できる人材を養成するのか、あるいは地域や県内だけで活躍する人材を養成するのか、その辺が迷っているというお話がありました。評価委員会では、それぞれに意見を出していただいていますので、それを踏まえて宮城大学としてはどういう人材を輩出するのか、どういう所にポイントを置いていくのか、そうした大きな視点をどこかに置きたいということです。

(委員)

教育や研究を象徴的に表すような数値目標はかなり難しいと思います。特に、教育ですと出口だけではなくて、大学として教育力を高めて学生の能力を引き出し、向上させることもあるわけですから、出口だけに關心がいくような目標にはならないと思います。研究につきましても、同様にかなり難しいと思います。知事が言われている、地域なのか全国なのかということについては、文章表現でも良いと思います。「はじめに」に数値をあげることは、意味合いが全然違いますし、それ以上に象徴的な目標をあげることは難しいのではないかと思います。

(議長)

教育研究の目標で数値目標をあげるのは難しいのかなと思います。そもそも、県内就職率は高く目指すべきものかということもありますし、入口、出口論については色々と議論があるところでしょうが、実際、教育研究活動が、まずは地域のためになること、研究はそれだけに止まるものではないにせよ、建学の精神が実学を重視しており、地域貢献を掲げている大学ですので、入口、出口の話は必ずしもリンクしないと思います。いろんな考え方があるにしても、常に行われている活動自体は地域に常に密接に関わっていくべきものであり、宮城大学がそういう大学であって欲しいということ自体は、あまり異論がないのではないかと私自身は思っております。

また、地域貢献の面での何らかあげられる数値がないのかということと、行政改革のための法人化ではないにせよ、これを機により自主的で効率的な運営が求められていくことは間違いないことです。就職率云々で議論が止まってしまった面はありますが、地域貢献や業務運営面での数値が、中期目標に残せる部分があるかどうかという、その辺に御意見はあるでしょうか。

(委員)

無理矢理数値だけ出さなければならないという前提で考えてしまうと、埒があかない気がします。地域貢献の部分での数値として考えてもあまり意味がないと思います。

(委員)

大学としても議論を重ねてきて、中期目標に数値目標は掲げない方向に傾きつつあります。

ですから、そうしたことを踏まえていただくならば、県として評価委員会に向けて、数値目標は掲げないという対応をすることが可能かどうか。そうした論拠や資料を固めて、評価委員会に臨むことをお願いできればありがたいということです。ただし、修正案の1～3は良くできているので、これは生かしていただいて良いと思います。

(事務局)

では、修正案の1～3も入れながら文章表現は考えたいと思います。数値目標については、中期目標にはあげないということを事務局から説明します。

(委員)

大学としての立場からも委員に対しては説明ができると思います。また、修正案の1～3をさらに修正して基本指針に変えることも1つの案でしょうし、基本指針はそのままにしておいて、修正案をそれぞれの項目の先頭に、総論として入れる方法もあろうかと思います。

(議長)

基本指針の形で残すとすれば、あまり冗長になっても重くなってしまうと思います。文章として取り込む方法は、再度検討していただければと思います。

それ以外の目標については何かございますか。

(委員)

評価委員会の具体的な御指摘の中では、入学者選抜方法の改善と英語教育の抜本的な見直しというのがより具体的で、かなりインパクトのある問題だと思います。その対応を見ますと、入学者選抜方法の改善は、適切な形で見直していきますということで、やむを得ないものと考えます。英語教育の方は、ネイティブ・スピーカーの増員やe-ラーニングをやること程度しか書いていないようですが、これで委員の方が納得していただけるかだと思います。英語教育については、ある程度具体的に書いた方が良いと思います。

(委員)

入試選抜単位の改善など、3項目の改善策については別紙にまとめてお出ししているので、それを見ていただければ対応案が分かると思います。

(議長)

それでは、ただいまの協議を踏まえまして、今月19日の評価委員会に備えたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、5の「その他」ですが、事務局から連絡事項があるとのことですので、お願いします。

《事務局から次の資料により、今後のスケジュールを説明した。》

参考資料3 宮城大学法人化推進会議・公立大学法人宮城大学評価委員会検討スケジュール(修正)

参考資料4 宮城大学法人化推進会議・専門部会規程検討スケジュール

(議長)

他に何かございませんか。

(委員一同)

なし。

(議長)

なければ、以上で議事を終了いたします。